



未来に向かって輝け！

わが町のがんばる企業！

～ 和 水 町 企 業 等 懇 話 会 企 業 訪 問 ～

肥後HKコンクリート工業株式会社 (和水分下津原)

和水分企業等懇話会は、町内企業の繁栄と町の振興を目指すことを目的として設立し、現在23社の会員企業が加入、さまざまな交流活動を行っています。今回は、会員企業の肥後HKコンクリート工業株式会社を訪問しました！

創立50周年を迎えて！

肥後HKコンクリート工業株式会社は、和水分下津原の菊池川沿いにある会社です。昭和44年12月設立で今年で50周年を迎えます。坂本一登社長をはじめ、18人の社員が働いています。

主に、コンクリートブロックや「なべた石」（阿蘇凝灰岩）の製造を行われています。主な製造物である間知（けんち）ブロックは、河川の護岸や道路の法面に良く用いられているそうです。

また、工場で生産されている「連節ブロック」は、鹿児島から福岡・北九州まで九州一円に出荷しているとのこと、実際、工場を見学したところ、さまざまな用途で使用するいろいろな形をしたブロックが所狭しと並べてありました。

「なべた石」は、県内外の至るところで使用されているとのこと、町内では菊水ロマン館の外壁や内部の通路にも使用されています。今後は、熊本市内の大型プロジェクトで熊本を表す素材として使用される予定とのこと。

それから「なべた石」は、肥後HKコンクリート工業株式会社の独自ブランド名として、これまでの独自性をもった取り組みが広く知れ渡るきっかけになったそう、現在も景観を損わない「わび・さび」の雰囲気を出せる石として需要があるとのこと。



工場内
(ブロックがきれいに積んである)



ブロックの製造ライン



新しいブロックの製造ライン



出荷を待つブロック



出荷を待つ「なべた石」
(番号が付してある)

「なべた石」は、久井原地区にある採石場から取り出しているとのことでした。実際に商品として出荷予定の石を見ましたが、何トンもある大きな石から小さい石まで番号を振って並べてあり、設計書通りに石を切り出し、順番に並べているとのことでした。

また形があり、いろいろな用途で使われていることを知ることができました。また、環境や景観に配慮した製品を製造されていることも知ることができました。役場の敷地内にも肥後HKコンクリート工業で製造されたブロックなどが使われていて、見ることが出来ます。

前段にも書きましたが、「なべた石」は、菊水ロマン館以外にも道の駅周辺でもいろいろな施設や場所に使用されています。山鹿市の「八千代座」周辺も「なべた石」を使って整備されているそうです。

「なべた石」は日本人の美意識に欠かせないものだと思ってきました。
(取材まちづくり推進課・居石)

～きらり★輝くなごみびと～



肥後HKコンクリート工業株式会社
魚野遼希さん
真面目で若手のホープ!!



自宅庭にローズガーデン

元々自宅庭にバラを植え始めたのが約10年前。熊本市の農業公園カントリーパークのバラ祭りでも2本のバラを買って来て、家庭菜園をしていた場所に植えたところから始まりまし

た。その2本のバラが上手に育ったことからバラの栽培に目覚めた鈴木さんご夫妻。今では60種類以上のバラを育てています。

そして、6年ほど前からバラの見頃（5月ごろ）に自宅の庭をローズガーデンとして一般公開していて、今年は金栗四三ミュージアムや金栗四三生家記念館などを訪れた県外の方にもたくさん観ていただいたそうです。

また、バラを観るだけではなく、何かできないかと「ばら地蔵」を置きました。昨年行われたKOIBANA主催の婚活パーティーでは



鈴木一明さん(70)

東京に住んでいた頃に妻、智子さんの実家がある和水分を訪れた際、魚釣りなどを体験し豊かな自然に触れ「ここで子育てがしたい」と思い、約35年前に移住。現在は仕事を退職し「ローズコンシェルジュ」という資格を取り、バラ教室や自宅庭にローズガーデンを作っている。さらに4年前にドローン講師の資格も取得し、ドローンでの空撮も行っている。

参加者がこのローズガーデンに訪れ「ばら地蔵」に願掛けをしたところ、なんと史上最多の5組のカップルが誕生しました。

バラ以外にも4年前からドローンで空撮もしていて、和水分の自然を始め、最近では金栗四三マラソンや金栗四三生家の撮影などをして和水分の魅力を発信しています。町内では「ドローンおじさん」と呼ぶ人も。金栗四三生家記念館のポス

ターに使われている空からの写真も実は鈴木さんが撮影しています。

和水分の好きなところ

最後に鈴木さんに和水分の好きなところを聞いてみました。

「この町は自然が多くて素晴らしいと思います。そして、自分で仕事を創ることが出来ます。何が出来るかいろいろ想像すると楽しくて仕方がありません。この町は宝の山です」と笑顔で語ってくれました。



▲バラの花びらでお化粧をすると恋愛が成就する!?と話題の「ばら地蔵」



▲自宅庭のローズガーデンに咲くバラ

協力隊活動記 Vol.23

里山再生活動に毎月参加しています！

こんにちは、米川です。今回は毎月参加している里山再生活動についてお話しします。

ご存じの方も多いと思いますが「ふれあいの森」では、津田・平野地区の皆さんで構成される「なごみの里協議会」による里山再生活動が月に一度行われています。12カ月の季節に応じた作業内容で、豊かな自然と昔からの知恵と工夫に触れることが出来るため毎月楽しみにしています。

4月、山小屋の裏にある畑に里芋を植えました。地中に保存していた親芋を掘り出し、それを“芽がどこから何個出るか”を考えながら切って植えていきます。マルチ抑えもその場で切り出した女竹のピン。皆さん手慣れたようすでナタを扱われるので見ていてとてもうっとり。

5月、芽を出した里芋のためにマルチをそっと裂きました。まだ真っ白な芽でしたが、これから濃い緑色となりいずれ人の背丈ほどに成長するのです。

作業後の楽しみはなんといってもお昼ご飯！つやつやのおにぎりや季節のおかずが最高です。いつか私もこんな味を作れるようになりたいなあなんて思いつながりながら食べています。

協議会の皆さん、いつもありがとうございます。あの広い土地を最初は開墾から始められたと聞いて驚いています。一度人の手から離れた山里をもう一度再生させ維持する大変さを学ばせてもらっています。



ちなみに野良牛が1頭います。見つけられたらラッキー！

よねかわ ひろこ
米川 博子

